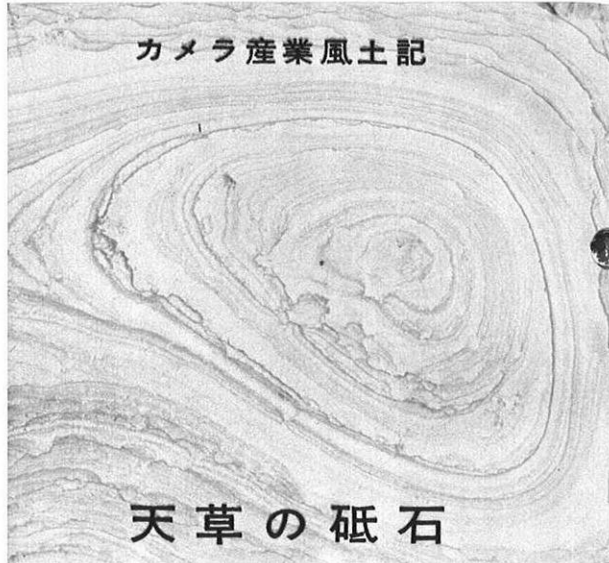


上・砥石の壁は結晶体のようにそそり立つ。



上・帯のこで規格にあわせて切断。



カメラ産業風土記

天草の砥石

上・うす茶色の紋様がいろいろに拡がり抽象
絵画をみるように美しい……。柄の具合いで値
段がちがうというから一寸した芸術品。



上・耳とり作業、ここではじめて商品化する。

新建築の売っ子

うす茶色の美しい模様のある石材を、
床や壁張りに使っているモダンな建物を
見る。砥石の近代的な感觸がムードを引
きたてている。これが最近新建材として
脚光をあびつつある天草砥石。

天草砥石の歴史は三百年以上にもなる
という。ついさきころまでは、石として
すてられたり、埋め立てに使われていた
が、美しい模様があり現町長の助言で見
いだされ、活用したもので、大理石やミ
カゲ石のような、はでなものにあきた人々
が、もつとしぶいものを……という事で、
九州はもとより、東京・大阪方面へどん
どん出荷されるようになった。

まだ試験の段階で機械設備など十分に
はないが、こんなに注文があつては、と
うてい応じきれません。とうれしい悲鳴
をあげている。

重い石材は船の積みおろしが大変だが、
天草架橋が出来れば、輸送の問題は解消
されそう。今や天草砥石は新建材として
飛躍的發展が約束されている。

〔天草郡大矢野町にて〕

しあわせをたかめよう

■ しあわせを高める運動はどうして起こったか

昭和二十七年に全国民生委員の「世帯更生運動実践申し合せ」によって、全国十二万の民生委員が一奮に立ちあがり、一委員一年一世帯の更生をはかるうという決意のもとに実践活動が始められたのが、この運動。
しかし、その後、所得の格差がますます著しくなってきた低所得階層及びそれに加えて働く能力をもちながら、不完全な就業状況にある被保護者を民生委員個人の力で更生させることは、なかなかたいへんな仕事なのである。
そこで、時代の要請に即応した強力な自立更生運動を展開することが必要であるとの自覚のもとに昭和三十五年、この運動強化に関する申合せ決議が全国民生委員において行われ、これに呼応して、この運動に対する社会福祉協議会議会の積極的な協力、一体となった活動が必要であるとして、社協関係者のとりあげることとなり、世帯更生運動をしあわせを高める運動と改め、被保護者も含めた低所得階層の自立更生運動を地域ぐるみで推進されることになった。

誰が実施するか

この運動の中心になるのは、

民生委員である。民生委員の世帯更生指導にあたって、地域住民がお互いの協力によって、自立更生世帯に希望の灯をともしることが大切になってくるわけ。

運動の対象となる世帯

1、働く意欲、能力を持ちながら、家庭的あるいは身体の障害のために働けにでられないとか、適当な仕事が見あたらないなどの状態にある被保護世帯。

2、現在は、何とか暮しているが、家族の誰かが病気になるとか、思わぬ事故がおこるとたちまち生活に困るような所得の低い世帯。

3、さしあたって生活には困らないが、家庭的な理由によって、家族関係がおもわしくない世帯あるいは地域的なつながりに欠ける世帯などで何らかの指導援助が必要であると認められる世帯。

例

- ・ 病弱者を有する世帯。
- ・ 身体的、精神的欠陥のある者を有する世帯。
- ・ 親が子供の養育に無知であったり、無関心であったりする世帯。
- ・ 長期欠席児童を有する世帯

・ 親が子供を虐待する世帯。
・ 不良化傾向の児童を有する世帯。

・ 常に家庭不和の世帯。
・ 生活環境がいちぢるしく不潔な世帯。

この運動のねらい

人はみなよりよい生活を営み、少くとも人並みの生活をしたい、しあわせでありたいと願う。

しかし、世の中には、人並みの生活どころか、その日の暮しにも困っている人が少なくない。

また、日常の生活は何か暮しているが、家族の誰かが病気になるとか、あるいは予期しない事故のために、たちまち生活に困ってしまう人々、さらには家庭的な環境に恵まれないため、家庭生活に不安を感じている人々等、

私たちの生活のまわりには、このような「しあわせ」に恵まれない人々が少なくないわけである。

このような人々はもとより、お互いの生活、お互いの社会生活はどうでしょう。一歩ふりかえって、お互いに考えてみる必要はないだろうか。

「しあわせを高める運動」は、

対象世帯について、民生委員を中心として、地域住民の協同の力によって、自立更生への明るい灯をともし、しあわせをきずくことにあるわけである。

このためには、お互の隣人中に対象世帯があるかどうか、民生委員は地域住民の生活の実情をよく調べ、地域住民は、隣人の中に対象世帯がある場合は、この問題解決に積極的協力し、問題の内容によっては、地域住民全体の協力の呼びかけなど隣人として、最善の努力を惜しまない心掛けが大切になってくる。

「しあわせ」は、遠くにみえても身近かに感ずるもの、「しあわせ」をどのように意識するかによって、問題の在り方も異なるでしょう。

身近な「しあわせ」の積上げを通じて、個人のみならず家族全部が、さらには地域住民みんなが、ほんとうに「しあわせ」を感じ、楽しい明るい社会をきずきあげたいものである。

次号予告

新春座談会・一九六五年の展望・新しい年の夢と抱負をグラビアをまじえて構成。他に随筆など

〔編集部〕